

是れ其の時なり、決定して大乘を説く」等云云。

問云、機にあらざるに大法を授られば、愚人は定て誹謗をなして惡道に墮ならば、豈説者の罪にあら

ずや。答云、人路をつくる。路に迷者あり。作者の罪となるべしや。良医薬を病人にあたう。病人

嫌て服せずして死ば、良医の失となるか。尋云、法花經の第二云、「無智の人の中にして、此經を説

くこと莫れ」。同き第四云、「分布して妄りに人に授与すべからず」。同き第五云、「此の法花經は諸

仏如来の秘蜜の藏なり。諸經の中に於て最も其の上に在り。長夜に守護して妄りに宣説せざれ」等云云。

此等の經文は機にあらざれば説かざれというか、いかん。今反詰云、不輕品云、「而も是の言を作さ

く、我れ深く汝等を敬う」等云云。「四衆の中に瞋恚を生じて、心不淨なる者あり。惡口罵詈して言く、

是の無智の比丘」。又云、「衆人或は杖木瓦石を以て之を打擲す」等云云。勸持品云、「諸の無智

の人、惡口罵詈等し、及び刀杖を加うる者あらん」云云。此等の經文は惡口罵詈乃至打擲すれどもと

れて候は説人の失となりけるか。求云、此の兩説は水火なり。いかに心が心うべき。答云、天台云、「時

に適當のみ」。章安云、「取捨宜しきを得て一向にすべからず」等云云。釈の心は、或時は謗じぬべき

にはしばらくとかず、或時は謗ずとも強て説べし。或時は一機は信ずべくとも万機謗べくばとくべから

ず。或時は万機一同に謗ずとも強ても説べし。初成道の時は法慧・功德林・金剛幢・金剛藏・文殊・普

賢・弥勒・解脱月等の大菩薩、梵・帝・四天等の凡夫大根性の者かすをしらず。鹿野苑の苑には俱隣等

の五人、迦葉等の二百五十人、舍利弗等の二百五十人、八万の諸天。方等大会の儀式には、世尊の慈父